

E・ファン・デル・クナーフ編

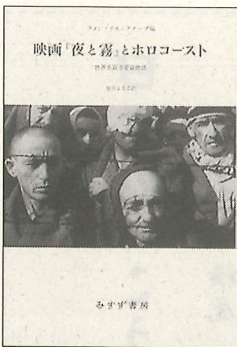
映画『夜と霧』とホロコースト

世界各国の受容物語

本書はフラン・レネ監督だという。しかし「原題」の短編記録映画『夜と霧』（1955）がフランス、ドイツ、イスラエル、イギリス、オランダ、そしてアメリカにどのように受容されていったのか、各国での批判と異議の諸相を踏まえて国際的に検証した興味深い研究書の翻訳である。

30分ほどの

しかし、日本では「夜と霧」といえば、ユダヤ人精神学者フランクルの本と思われている。その受容の広がりと深さは、最近の河原理子『フランクル「夜と霧への旅」が示している。古典的霜山徳爾訳（1956）76万部と池田香代子新訳（2002）39万部を合わせた合計115万部以上（2017年7月現在）



四六判・322頁・4600円
みすず書房
978-4-622-08719-9
TEL. 03-3814-0131

を通じて世界的に流布し「冬の危機」に、西部諸国た。収容所での迫害と大量殺戮をリアルに示す素材と抵抗が呼応し、拡大した。現在でも第一級の映像史料である。

本書が示すように、ドイツ、フランスなど各国では映画が歴史政治教育で重要な役割を果たしてきた。最近のフランスでは人種主義的事件の勃発に對峙してテレビで放映されるまでになったという。そもそもレネは、アルジェリア戦争に対する批判と警告を込めて、

批判と異議の諸相を踏まえて

国際的に検証した興味深い研究書

永岑 三千輝

戦争の悲劇的帰結を描き出したのだ。新進の映画監督レネは、第二次世界大戦歴史委員会から制作を打診された。委員会代表は著名な歴史家でレシスタンス活動家だったアンリ・ミシエルである。「夜と霧」命令は、ヒトラー命令に基づき、国防軍最高司令部長官カイテルが1941年12月7日に発した。対ソ戦での苦境、ナポレオンの敗北が連想される

学術思想

入と関連していた。これこそが彼のユダヤ人絶滅命令を決定づけた。二つの命令は全く別物でありながら、独ソ戦から世界大戦への大転換と総力戦の泥沼化と内

だが、ナレを契機にドイツ本国では数年のうちに積極的な受容の態勢が構築された。要な内容がユダヤ人の大量虐殺だったという点は明らかだ。

検閲・輸入禁止が長く続いた日本での受容はどうだろうか？（庭田よう子訳）（ながみね・みちてる）横濱市立大学名誉教授・ドイツ現代史

★E・ファン・デル・クナーフはヒトラーのドイツ文学・文化学助教授。近年、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の研究員として、アーンスト・マイスターの詩集の編集に取り組む。